

「コロナの影響も黒字堅持」

キャンプブリーク海山の昨年度実績

紀北町便ノ山、町営森林公園オートキャンプ場「キャンプブリーク海山」の令和2年度収支実績がまとまった。新型コロナウイルス感染症の影響で、前年度

に比べて宿泊者数、売り上げとも2割ほど減少したものの黒字を確保した。

昨年度の実績は、宿泊者数2万42人で前年度比57.8%減。売り上げは5



ソロキャンプキャンペーンなどを行った

0円を計上、差し引き1024万5012円の純利益となった。前年度は1182万9267円の黒字だった。

昨年度は緊急事態宣言を受け、ゴールデンウィークを含めた4月10日～5月22日を休業。営業再開後はグループキャンプや大人5人以上の予約を断る利用制限や、夏休みの短縮の影響を受け、前半は客足が戻らず、苦戦が続いた。

11月から3月までのオフシーズンの間、平日限定で1人客での利用を推進する「ソロキャンプキャンペーン」を実施。冬キャンプのブームの後押

しもあり、後半は持ち直した。

主な支出は人件費が14683万6137円（前年度比110.8%）、66993円減）、委託料299822円（同266.3%）、64666円増）、整備費33万6600円（同17.5%）、730円減）、備品購入費62万2110円（同48%）、310円減）など。施設整備費として、平尾コテージの屋根改修工事費712万8000円を使用料でまかされた。

指定管理者のあるさと企画舎の田上至理事長は「コロナ禍の中、不安はかりだったが、対策に理解を示して協力してくれるお客様に助けられた1年間だった」と振り返り、今後コロナの影響は続くが、今後も感染対策に取り組みながら営業を続けていきたいと語った。